



## ドイツ

### 新しいタイプの生理用品が人気

●商品テスト財団「テスト」2021年5月号 <https://www.test.de/Menstruationstassen-im-Test-Eine-gute-Alternative-zu-Tampons-5331484-0/>

ナプキン、タンポンに続く第三の生理用品として登場した月経カップ。医療用シリコン等のカップを直接、膣に挿入して経血をためるといった新しい発想である。8時間ごとに経血を捨てるのが推奨されている。洗浄しながら、何度でも再利用できることから、ドイツでは環境意識の高い若い女性を中心に愛用者が増えているという。タンポン利用者が全体の約4分の3と多数を占めるなかで、月経カップも13%と健闘している。そこで、商品テスト財団ではタンポン19商品、月経カップ10商品を対象に、テストを行った。

重視したのは、使用中の快適さと使いやすさである。商品ごとに少なくとも20名の女性の協力を得て、使い心地、フィット性、運動時の装着感、経血のキャッチ能力、装着・取り外しのしやすさ等を検

証した。月経カップについては、洗浄のしやすさも判断材料とした。

その結果、タンポンの全商品、月経カップでは1商品を除く全商品が、実地テストで「よい」という高評価となった。唯一「普通」と評価された月経カップは、他商品に比べて形状が個性的だった。また、オーガニックコットンの認証を受けたタンポン1商品から、環境ホルモンの作用を有するノニルフェノールエトキシレートが相当量検出されたことから、同商品の総合点が減点されている。

なお、ドイツ女性にとって重要なのが経済性だが、今回テストした月経カップの価格は、約9~27ユーロとさまざまだった。廃棄までの期間も8カ月~10年と差があることから、同財団は表示をよく確認してから購入するよう助言する。



## オーストリア

### 園芸用の土選びで気をつけること

●オーバーエスターライヒ労働者会議所ホームページ [https://ooe.arbeiterkammer.at/service/testundpreisvergleiche/tests/13\\_Blumenerden\\_getestet-6\\_durchgefallen.html](https://ooe.arbeiterkammer.at/service/testundpreisvergleiche/tests/13_Blumenerden_getestet-6_durchgefallen.html)  
●ドイツ連邦環境庁ホームページ <https://www.umweltbundesamt.de/themen/kein-torf-in-den-topf>

趣味で植物を育てるときに重要なのが、土選びである。

オーバーエスターライヒ労働者会議所は、スーパーやホームセンターで購入できる独自ブランドの園芸用土13商品(うちピートモス不用品は5商品)を対象に、さまざまな観点からテストを行った。

特に重視したのは、植物の生育状態である。各商品を入れた園芸ポットにハクサイの種をまき、3週間栽培して発芽率、草丈、重量を比較した。同国で「中国キャベツ」(Chinakohl)と呼ばれるハクサイは、サラダ、炒め物、スープの具材として重宝されている。

公表された写真を見ると、生育の違いは一目瞭然だった。保湿性・保肥性が高まるといわれるピートモスだが、使用品と不用品で生育状態に関連性が

無いことも分かった。ピートモスとは、長い年月をかけてミズゴケ類が堆積し、泥炭化したもの。多くが東ヨーロッパからの輸入品だが、ピートモス採掘による生物多様性の喪失、温室効果ガスの放出等を指摘する声が高まり、不使用(または削減)をうたう園芸用土が増えている。同会議所もピートモス不用品を勧めている。

なお、栄養分や異物、細菌など成分・品質の観点からもテストを行ったが、植物の成長に欠かせない窒素が少なすぎる商品、異物(プラスチック、金属)が目立つ商品、衛生的に問題のある商品等が相次いだ。4商品から許容値を大きく超える大腸菌が検出され、1商品からはサルモネラ菌が検出されている。そこで同会議所は、ガーデニングをする際、必ず手袋を使うよう助言する。



## イギリス

## 玄関先詐欺の被害にあわないために

● Which? ホームページ

<https://www.which.co.uk/news/2021/05/fraud-at-your-front-door-how-doorstep-scammers-exploited-the-pandemic/>

イギリス警察の詐欺報告センター「アクション・フロード」には、事業者や慈善事業をかたって戸別訪問する詐欺による被害が過去2年間、毎月300～500件報告されている。2020年4月は厳しいロックダウンで大幅に減少したが、夏には例年の水準に戻り、2020年の被害総額は1870万ポンドに上った。特にコロナ関連を悪用した巧妙な手口の玄関先詐欺の増加が懸念されるという。マスク着用が一般化し、加害者の特定が困難なことも拍車をかけている。

2021年2月にWhich?が会員約1,200人にオンライン調査したところ、16%がロックダウン中にもかかわらず突然の戸別訪問があったと回答。例えば、一人暮らしの80歳代男性は、買い物や用事の代行ボランティアを申し出る若者2人に現金200ポンドを渡して買い物を依頼したが、彼らは二度と現

れなかったという。また、NHS(国民保健サービス)の職員をかたり、有料の即時コロナ陽性検査やワクチン接種を持ちかける、コロナに効くと称するサプリを売りつける、などの例は全国に広まっており、すべて虚偽であるとNHSは注意喚起している。

被害者が現金で支払った場合、カード決済の場合に比べて損害を取り戻せる可能性は非常に低く、心理的ダメージも大きい。Which?は、予告のない訪問販売等は拒否する、どうしても購入・寄付したい場合は相手のIDや事業主を確認しカード決済にする、詐欺が疑わしい場合は新たな被害防止のためにもアクション・フロード等に報告する、などの助言をしている。また、映像で外のようなすが分かるスマートドアホンや監視カメラ、「訪問販売お断り」のステッカーも有効であるという。



## アメリカ

## 人にも環境にも安心な日焼け対策は？

● CR ホームページ

<https://www.consumerreports.org/sunscreens/best-sunscreens-of-the-year/>  
<https://www.consumerreports.org/sunscreens/the-truth-about-reef-safe-sunscreen/>

皮膚がんはアメリカで最も一般的ながんで、死亡率の高い悪性の浸潤性メラノーマの2021年の新規発症予測は10万人以上、死亡予測は7,000人以上である。原因の約9割が紫外線暴露であるため、新生児を除くすべての人は、日中屋外で肌を露出して過ごす際に日焼け止めを使用すべきであると専門家は忠告している。CR(コンシューマーレポート)は今年も夏に備え、日焼け止め(ローション、スプレー)の購入ガイドを更新。CRのテストの結果から、表示されたSPF値に近いかそれ以上の実測値を示した優れた製品を推奨している。また、十分な量をこまめに塗り直す、スプレーは子どもが吸い込みやすいので要注意などの助言をしている。

一方で、FDA(食品医薬品局)は2019、2020年に、日焼け止め成分として多用されるオキシベンゾン、

オクチノキサート、オクトクリレンなど6種の化学物質が皮膚から吸収され生殖毒性などの悪影響を与える可能性を指摘。今後も研究の継続が必要としている。また、これらの化学物質はサンゴ白化の原因の1つとして批判が高まっている。世界の海には毎年6,000～14,000トンの日焼け止めが流入し、特にサンゴ礁などで人気の海岸に多く沈殿すると国立公園関係者は危機感を表す。2021年1月より、ハワイ州では、オキシベンゾンとオクチノキサートを含む日焼け止めの販売が禁止された。

CRでは、これらの化学物質を含まない天然成分(ミネラル)含有の日焼け止め製品については、容認できる水準に達している2銘柄を紹介。そして、日焼け止めの使用量を抑えるためにできるだけ肌を覆う衣服や帽子、サングラスの活用を勧めている。